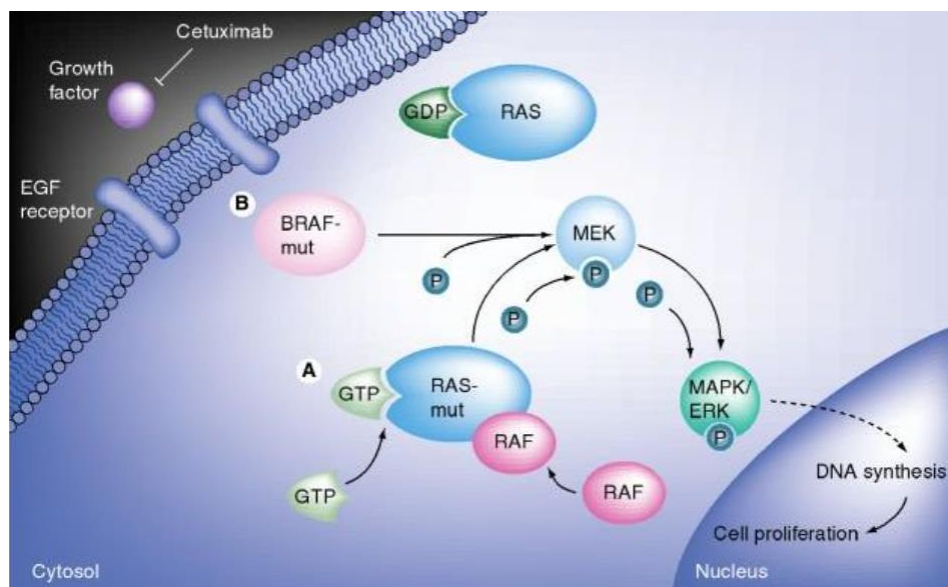
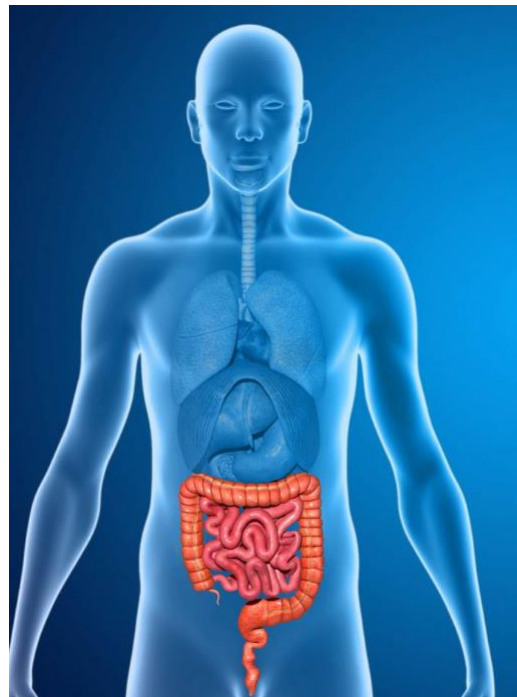


大腸がんの新規バイオマーカー、*BRAF* 遺伝子変異

BRAF^{V600E} 遺伝子変異は、切除不能進行再発大腸がん患者の約 10% で認められ、化学療法の有効性が乏しく極めて予後不良なマーカーであることが示されています。



BRAF^{V600E} 変異陽性の未治療進行・再発大腸がん患者に対しては、FOLFOXIRI+ベバシズマブ療法は FOLFIRI+ベバシズマブ療法に比べて、がんの増悪および死亡リスクを 40%以上低減することが示され、Lance Oncology に掲載されました。



大腸がんの治療選択においては *BRAF*^{V600E} 変異の測定の重要性が高まっており、国内でも *RAS* および *BRAF* 変異を同時に測定できる診断薬（MEBGENTM RASKET-B キット）が開発されています。

